

近年のあゆみ



▲ 海老名駅の整備
平成22年8月20日海老名駅駅舎部自由通路が完成。通路幅はこれまでの2倍に広がり、エスカレーターも設置されました。また、私鉄の駅では全国初となる鉄道警察隊分駐所や防犯カメラが設置されるなど、安心・快適な空間となりました。



▲ 海老名インターチェンジ開通
平成22年2月27日開通。これにより相模大橋、戸沢橋などの混雑が緩和され、さらに交通の利便性が高まりました。

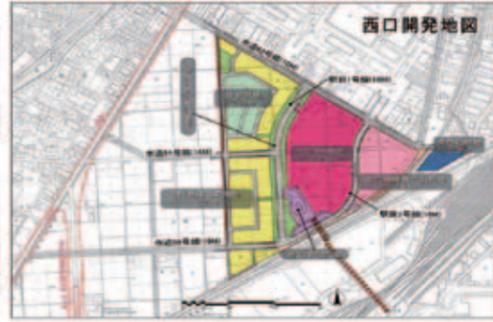


▲ 消防署北分署の移転・建て替え
平成22年2月15日業務開始。大規模災害発生時には北部地区の対応拠点として機能します。屋上緑化や太陽光発電設備などを備えた、環境にも配慮した施設となっています。



もうすぐみられる！
海老名の未来！！

西口開発
イメージ



海老名駅駅間自由通路完成イメージ

海老名駅西口地区
「県央の新たな顔として」
鉄道の結節点である海老名駅。西口地区では、大型商業施設や高層住宅、オフィスなどの建築が計画され、まちづくりが大きく進展しようとしています。これにより海老名市は、県央の拠点都市として、さらに元氣あふれる魅力あるまちへと発展していきます。



元気な子育てを応援！
子育てへの取り組み

子どもたちへの居場所の提供
えびなっ子サマースクールの開催日数拡大、全小学校でのあそびっ子クラブ事業の充実など。

子どもたちへの居場所の提供

支援が必要な子どものための補助指導員、障がいのある子どものための介助員のほか、日本語指導講師の増員や、少人数指導、生徒指導支援の教職員や学校安全監視員の配置など。

学校での学習や生活における支援

子ども医療費の助成
対象を小学校6年生までから中学校3年生までに拡大。

子ども医療費の助成

未来の海老名を担う
子どもたちの健やかな
成長に向けた事業の推進



春



夏

市制施行40周年
ずっと住み続けたいまち、えびな。

昭和46年11月1日、神奈川県内16番目の市として誕生した海老名市。当時、約4万8000人だった人口が、現在では約12万7000人と2倍以上に増え、まちも大きく発展してきました。

海老名市は、交通や生活の利便性が高く、緑が豊かなまちです。この利便性と自然が程よく調和されているところが、海老名市の大きな魅力といえます。

今後も、将来都市像の「快適に暮らす 魅力あふれるまち 海老名」を目指して、しっかりとした基盤を作り上げながら歩み続けてゆきます。



秋



冬